

ごらくちょう

Bird of Paradise



発行 NPO 法人 日本・パプアニューギニア協会 編集 NPO 法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 発行日 令和2年8月5日

令和2年総会決議による協会新体制の御案内 (山下会長から橋新会長へ)

「会長職退任の御挨拶」

NPO 法人 日本・パプアニューギニア協会
会長 山下 勝男



この度、私一身上の都合で、本年8月をもちまして会長職辞任することになりました。早いもので、2007年6月に会長職をお引き受けしてから、13年にもなってしまいました。齢80歳近くになり、心身ともに衰えを強く自覚するようになったこの頃です。皆様御存知のように、任期の初期の数期間は協会の指導者、協会の活動自体に対する根拠のないネガティブキャンペーンにさらされた時期でした。正直なところ、会員の皆様とともに善意でやっているボランティア活動に対して向けられた悪意の非難中傷に堪えがなくなり、幾度となく会長職を辞することを考えていました。ただ、根拠のない非難中傷にまけて会長が辞任することは、結果として、ネガティブキャンペーンを正当化する印象を与え、今後の協会活動に悪影響を与えるのではないかと、多くの協会会員の皆様に迷惑をかけるのではないかとの一心中、辞任を思いとどまり今日に至った気がします。

協会会員数については、現約150人を200人超えにすることを目標に頑張ってきましたが、理事・会員各位のご尽力にもかかわらず、会長の力不足で残念ながら目標達成叶いませんでした。ただ当協会は小粒のボランティア団体ではありますが、協会設立の趣旨に基づいて、日本とPNG間の友好親善と会員の親睦を目的にして、会報「ごらくちょう」発行、メールマガジンの発信等の広報活動、トクトク会の開催、親善訪問団派遣等の交流事業、PNG学生への奨学金給付事業、PNG・日本関係に関する幾多の照会事項に対する情報提供等目に見えないところでの支援活動を含めて、常駐スタッフを持たない事務局、会員の皆さんからの浄財(会費)に依存する収入のみを頼りにする弱小組織にしては、その規模以上の社会貢献を行っているのではと自負しています。これも偏に、会員皆様の浄財の寄付、事務局長はじめ会員の皆さんの上記の事業に対する献身的なご支援の賜物に他なりません。心から深く感謝申し上げます。

後任の会長につきましては、PNGでの深い経験と両国関係の緊密化に意欲を有している橋理事(元大使)が就任することとなりました。新会長に對しましても、引き続き皆様の御支援・御協力賜りますよう心よりお願い申し上げます。13年間の皆様のご支援に改めて心から感謝申し上げます。まだ新型コロナウイルス騒ぎが、いつ終息するのか見通しがつかない現在、皆様不安な日々をお過ごしのことと推察いたします。呉れ呉れも健康にはご留意の上お過ごしになることをお祈り申し上げます。

「新任の御挨拶」

NPO 法人 日本・パプアニューギニア協会
新会長 橋(岩崎)廣治



この度、山下会長の後任として会長に就任することになりました橋(岩崎)廣治です。十三年間にわたり協会をまとめてきた山下会長とは比べ物になりませんが、微力を尽くしたいと考えておりますので、皆様の御支援・御協力賜りますよう心からお願い申し上げます。

簡単に自己紹介をさせていただきます。私は1949年、石川県能登半島に生まれ、72年外務省に入りジャカルタ(2回)、キャンベラ、バンダスリブガワン、メダンと海外勤務をし、20年から2014年まで大使としてポート・モレスビーに勤務しました。

各勤務地それぞれに忘れたい思い出がありますが、やはり一番印象的な国はパプアニューギニアです。これは政治・社会・自然等の各分野に言えます。

細かいことは省略しますが、一言だけの申し述べますと、職務上種々の事柄をパプアニューギニア政府にお願いすることがあります。例えば国連での我が国への支持、遺骨収集への協力とか、あるいはニューギニア航空の運航とか色々ですが、一度も断られたことがありません。

また、東日本大震災の際には、パプアニューギニアの多くの人々からご寄付をいただきましたが、幼い子供たちが1キナ、5キナを寄付してくれたことは忘れられません。

自然の極楽鳥をマウントハーゲンの中で見ました。この世のものとは思えない美しさでした。またブーゲンビル島の海の水の美しさは表現のしようがありません。

私は日本とこのパプアニューギニアの益々の友好を心から願うものです。気になっているのは遺骨収集、慰霊巡拝、我が国企業の活動等々ありますが、少しでも何かできることはないか考えていきたいと思っております。

新型コロナウイルス騒ぎの最中ではありますが、この騒ぎは必ず終息するものです。そうなったときには両国国民の交流促進のために何かできれどと考えています。

また、会員間の親睦も大変重要なことだと思います。事務局の協力を得て盛んなものにしていけたらと考えています。

最後になりますが、役員の方々、会員の皆様の協力なくしては何もできません。どうか宜しく願いいたします。

皆様の御健康を祈っております。

令和2-3年度 役員理事リスト (敬称略)

名 誉 顧 問	マイケル・マウエ	元駐日パプアニューギニア特命全權大使		以下 50 音順	
顧 問	日本・パプアニューギニア 友好議員連盟の諸先生	代表 田中 和徳 (衆議院議員、 日本・パプアニューギニア友好議員連盟会長)	理 事	賀集 イレーネ	アルゼンチン共和国弁護士
名誉会長(理事)	村田 吉隆	前日本・パプアニューギニア友好議員連盟会長	理 事	川 口 築	日本旅行作家協会会員
名誉顧問(理事)	堀 江 正 夫	東部ニューギニア戦友遺族会会長、元参議院議員、 元日本・パプアニューギニア友好協会会長	理 事	喜多村 裕介	元 JICA パプアニューギニア所長
名誉顧問(理事)	谷 口 誠	桜美林大学北東アジア総合研究所特別顧問、 元日本・パプアニューギニア協会会長、 元駐パプアニューギニア日本国大使、 元日本国国連大使	理 事	郡 修 三	株式会社郡産業 代表取締役
名誉顧問(理事)	山下 勝 男	元駐パプアニューギニア日本国大使、 前日本・パプアニューギニア協会会長	理 事	鈴木 紀久代	新潟パプアニューギニア協会 事務局長
会 長 (理 事)	橋 廣 治	元駐パプアニューギニア日本国大使、作家	理 事 (新 任)	高 松 裕 満	協和海運株式会社 代表取締役社長
副 会 長 (理 事)	及 川 正 博	立命館大学特任教授	理 事	長 宏 行	財団法人オイスカ 国際協力部 部長
副 会 長 (理 事 新 任)	片 岡 明 人	住友林業 資源環境事業本部 技師長	理 事	辻 尚 志	元 JICA パプアニューギニア所長
事務局 長 (理 事)	島 田 謙 三	元ニューギニア航空 日本支社長、 日本ビジネスライン株式会社 代表取締役	理 事	豊 田 由 貴 夫	立教池袋中学校・高等学校 校長
			理 事 (新 任)	中 村 弘	晃和木材株式会社 元代表取締役社長
			理 事	西 川 政 伸	住友林業 資源環境事業本部 海外資源部長
			理 事	西 山 肇	元駐パプアニューギニア日本国大使
			理 事	花 井 鍊 太 郎	三重県 JICA 育てる会 理事顧問、 鈴鹿大学・鈴鹿短大 客員研究員
			理 事	原 晃	コーエイ総合研究所顧問、 元 PNG 政府外国人契約公務員
			理 事	武 藤 優	株式会社パプアニューギニア海産 代表取締役
			理 事	柳 田 正 弘	株式会社かもめ 取締役
			監 事	土 屋 耕 太 郎	土屋法律事務所 弁護士

2019年度日本・パプアニューギニア協会奨学生の紹介

伊藤 明徳 (ポートモレスビー支部長)

協会は、経済的な理由で大学での修学が困難な PNG 人の若者に対し奨学金を支給する奨学生事業を行っています。2019年度から2022年度(4年間の事業です)の奨学生は、2019年の11月に選考が行われ、有望な3名の大学生が奨学生に選ばれました。

2020年1月には奨学金授与式が行われ、中原邦之在 PNG 日本全権大使とマウエ名誉顧問から奨学金が手渡されました。コロナの影響で学業に影響がでていますが、3名の奨学生から自己紹介と近況の報告を頂きましたので紹介させていただきます。

Mr. Morris Joseph (23歳 大学2年)

私はガルフ州の出身です。家族は、両親の他に自分を含めて8人の兄弟がいます。ソゲリ国立高等学校を卒業して、現在、私はパプアニューギニア大学の2年目の学生です。

私の父は、いつも私達兄弟姉妹の授業料を準備するのに苦労していました。奨学金を頂けることになり、父の負担を減らすことができました。感謝しています。

私は、子供の頃の家庭内暴力の経験から社会福祉を大学で学びたいと思いました。そのため、去年は、将来仕事で必要となるコンピュータスキル、PNGの政治、コミュニティのエンパワーメント、コミュニケーション・ライフスキルを学びました。

大学では「社会福祉」専攻の芸術学士号を取得し、卒業後は学んだ知識とスキルを活用して社会問題の解決に貢献する、医療ソーシャルワーカーのキャリアを積み、PNGをはじめとする海外の人々の健康に関わる社会問題を解決していきたいと思います。



Miss. Niapun Dua (23歳 大学2年)

私はチンブー州とマヌス州出身の父と母を持ち、東ハイランド州カイナンツで生まれ育ちました。家族は両親の他に4人の兄弟がいます。大人になってからは、両親の仕事の関係で引っ越しが多く5つの州で10の学校に通い、落ち着いて学ぶことが出来ませんでした。しかし、私は、幼い頃からコンピューターとテクノロジーに惹かれ、常にITに情熱を傾けていました。

ソゲリ国立高校を卒業し、現在、マダン州にあるディ



バイン・ワード大学で情報システムの学士号を取得するために、ウェブサイト開発、データベース開発、データ分析などの経験を積んでいます。学業の他に、大学のクリスチャンフェローシップメンバーになり、精神的な成長を豊かするための活動にも参加しています。

大学卒業後は、サイバーセキュリティとネットワーキングの仕事に就くか、情報システムの修士号の取得も考えています。PNGでは、小規模ビジネスは重要です。テクノロジーの使い方を教育することで、小規模ビジネスの生産性を向上させ、より良い生活を生み出すことができると考えます。そのため、起業も視野に入れて、現在勉強に励んでいます。

Mr. Kayan Pokanau (23歳 大学2年)

私はモロベ州レイの PNG 工科大学で機械工学を学んでいます。マヌス州のペレ村の首長の子供です。私の父は、昨年亡くなりました。私は、5人兄弟の末っ子です。私は海に囲まれた小さな村で15年過ごしました。

私の家族は、村で生活しているため現金収入が限られていて、学費の準備が難しい状況でした。奨学金は本当に助かりました。皆さまに感謝致します。ソゲリ国立学校を卒業して大学に入学しました。今年は、コロナの影響で、通常の授業は行われておらず、学校のイベントのほとんどは中止となりました。ただし、オンラインの授業や、席の間隔を空けて授業を受けることもあります。

私は子供の頃から、飛行機のパイロットになることが夢でした。そのため、9学年から必死に勉強をして、工科大学に入学することができました。大学を卒業した後は、パイロットや航空機エンジニアとして海外でさらに勉強すると決めています。そのため、今は、夢を叶えるためエンジニアリングの知識の習得のために学業に励んでいます。



中原 邦之（駐パプアニューギニア特命全権大使）

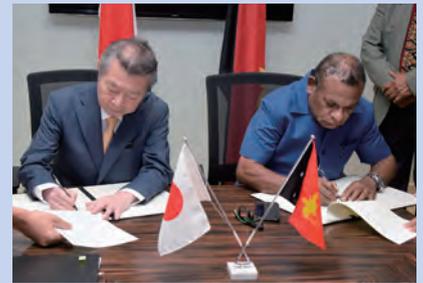
6月25日（木）、プルアイチ外務国際貿易大臣と、無償資金協力「経済社会開発計画」（航行の安全に関する機材供与（供与額10億円）及び保健・医療関連機材供与（供与額9億円）の2件）に関する文書の署名式を行いました。これは、両国政府が実施する事項を約束した文書を確認し合い、交換（Exchange of Notes）する重要な手続きです。

今回の協力は、スピードボート3隻と通信機材を供与することによってPNGの領海監視や海難救助に寄与するとともに、CTスキャンやX線検査機器等の保健・医療機材を供与することによってコロナウイルス等感染症の予防・治療に当たるPNGの保健関係部局や医療機関を支援するものです。

署名式では、3隻のスピードボートはPNGの全海域をカバーし、6台の通信機材はPNGの沿海域でのSOSを全て捉えることができ、海洋の安全を向上させるものである旨、また、今次供与する医療

機器が引き続き行われるコロナ対策の一助になると同時にPNGの保健分野の強化につながるよう期待する旨述べました。

これに対し、プルアイチ大臣は、「友人であり長期に亘るパートナーである日本と、日本国民の皆様からの支援に感謝します」等述べた上で、スピードボート等は海洋の安全保障だけでなく国境管理や違法貿易の取締りにも役立ち、また医療機器はコロナ対策だけでなく一般の保健能力強化に資するとして感謝の意を表明しました。



出典：The National News Paper

荻原 聖子（パプアニューギニア大使館 大使秘書）

8月3日現在の状況です。

7月28日にPNGにて4月に引き続き14日間のLockdown - 都市封鎖が再度決行されることになりました。COVID-19が首都のポートモレスビーを中心に緩やかですが広がってきた模様です。

これにより、“New Normal” Work Arrangementが政府のほうより各部署に発表されました。日本でも広がっている、新しい生活様式、働き方改革に通じるものがあります。

よって東京のパプアニューギニア大使館も引き続きビザの発給業務等は停止しており、大使館は交代で開館していますがなかなか通常通りの業務に戻るのには、東京での感染状況と同じく難しいようです。

また、ニューギニア航空の情報ですが、現在国内線は運航しているとのこと。

国際線は、ブリスベンとケアンズとシンガポールからポートモレスビーに運航しているようですが、日本からのPXへの乗り継ぎはシンガポールではまだ不可能で、ブリスベンとケアンズもオーストラリア政府の入国規制に乗っ取って乗り継ぎをするということです。

東京からは残念ながら無期限の運休になっております。

とはいえ、ビザの発給が停止になっておりますので、日本人が入国することは、未だ難しい状況ですので、あくまでもパプアニューギニア人向けの情報です。

まだまだ厳しい状況が続きますが、皆様も感染対策、熱中症対策にご自愛くださいませ。

PNG コロナ事情：大日本土木社による帰国チャーター便

中原 邦之（駐パプアニューギニア特命全権大使）

3月11日にWHOが新型コロナウイルスによるパンデミックを宣言し、その9日後の3月20日、PNG国内で初となる感染者が確認されました。これを受け、マラペ首相は22日に国家非常事態を宣言し、感染拡大防止のための措置として、国内便及び国際便を大幅に減便又は停止しました。

シンガポールや豪州等でも国際線の就航や乗継ぎが禁止されたため、PNGから日本に帰国するための手段がなくなり、PNG在住の邦人の皆様がPNGでロックダウンされるに至りました。

4月には、ポートモレスビー、東ニューブリテン州、ウェスタン州等でも感染者が確認され、PNG国内での感染拡大が懸念されました。特にPNGのように医療事情が良くない国では、重症化した際に十分な治療が受けられない可能性があります。

このような状況の中、モロベ州にある当国第2の都市レイで、ナザブ空港改修工事に従事されている大日本土木社から、自社社員だけでなく、PNGから日本まで送り届けるチャーター便を手配するとの申し出がありました。帰国したくとも出来ないという状況での誠に有り難いお申し出に、大使館としても大日本土木社のご厚情を無駄にせず、全力でこのオペレーションを成功させたいとの思いで在留邦人の皆様にお声がけをしました。

4月29日、邦人44名を含む計61名が同便に搭乗し、ポートモレスビーを出発、マニラを経由して、同日無事に成田空港に到着しました。

この帰国便に搭乗する皆様には、国内の移動が厳しく制限されている中、モロベ州、ミルンベイ州、東ニューブリテン州、西ニューブリテン州の国内各地からポートモレスビーに一旦ご参集頂き、ポートモレスビー発の早朝便で、

皆様無事に帰国の途に就かれました。

また、同便の復路便（成田～ポートモレスビー）には、国際線の減便や停止により、日本からPNGに帰国出来ずに困っていたPNG人8名が搭乗し、翌30日にポートモレスビーに到着しました。翌5月1日付の当地ポスト・クーリエ紙は、PNG人8名の帰国について1面トップで大きく報じ、ブルアイチ外貿相は、コロナ禍で帰国困難になっていたPNG人の帰国を支援してくれた大日本土木社に感謝したいと述べました。

この場をお借りして、今回のチャーター便を手配して下さいました大日本土木社に、大使館として心からお礼申し上げます。

新型コロナウイルスは、PNGでも猛威を振るっており、7月15日まで11名だった感染者数は、8月3日時点で110名にまで急増しています。感染者の増加はほぼ全てがポートモレスビーで確認されており、ポートモレスビーでは7月下旬から公共の場でのマスク着用が義務化され、更に夜間外出禁止令（夜10時から朝5時まで）が敷かれています（取り敢えずは8月9日まで）。また、感染者の多くがポートモレスビー総合病院の医療スタッフであったことから、医療事情の悪化が懸念されており、豪州から緊急支援チームが派遣される運びとなっています。

日本滞在中の皆様も、PNG滞在中の皆様も、引き続き、呉々も体調管理にはお気を付け下さい。皆様が健康な日々を送られることをお祈りしております。

※ 現在、PNG全域に感染症危険情報レベル2「不要不急の渡航は止めて下さい」が発出されていますので、ご留意下さい。
(<https://www.anzen.mofa.go.jp/covid19/info0721.html>)

事務局からのお知らせ

ごくらくちょう68号をお届けいたしました。

今号も発行が遅れまして申し訳ございません。

新型コロナウイルスの影響により今期は例年6月に開催しております定期総会、懇親会が開催できないまま、役員改選時期と重なり、書面評決に

より1頁の役員及び理事が決議されました。

できるだけ早期にTOKTOK会及び懇親会を開催し、新旧会長には皆様に直接ご挨拶を頂くように務めたいと思います。

新体制への皆様のご協力をお願い申し上げます。

現在協会では、パプアニューギニア国防軍への日本製の演奏服の寄贈事業を、防衛省と共に実施しております。現在サ

ンプルが出来上がり、現地へ輸送中です。また現在現地では各隊員の採寸を実施しており、採寸終了後に日本で仕立て現地にお届け致します。本件は協会の2名の会員様の寄付により実施されるものです。詳細は後日レポートさせていただきます。ご期待ください。

4頁でお届けしております「法人会員のご紹介」ですが次号までお待ちくださいませ。次号では「仙台育英学園様」をご紹介の予定です。

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆ 法人会員：25社 ◆ 個人会員：129名（2020年8月5日現在）

お問い合わせ先 日本・パプアニューギニア協会 事務局 〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-12 社会保険労務士会館9階 日本ビジネスライン株式会社内
TEL:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556 E-mail:info@jpng.or.jp URL:http://www.jpng.or.jp/

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

申し込み方法 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 個人会員6,000円 家族会員3,000円 法人会員60,000円 学生、PNG人1,000円

会費受付 郵便振替口座をご利用ください。

口座番号 00140-2-277582

加入者名 トクヒ ニホン パプアニューギニアキョウカイ